

# 横山教授に聞く 科学のふしぎ

76

2021年の8月15日に (特別編)



今日は終戦記念日、国内外に多くの惨禍をもたらした戦争に大日本帝国が敗れた日です(1945年)。80年前、国の総力戦研究所が科学的にデータを分析し、アメリカと戦争しても勝てないと報告したのを押し切り、「日本には大和魂があるから」という甘い見通しで始めた戦争でした。

新型コロナウイルスに対して検査と隔離を十分せず、科学的根拠を無視し、

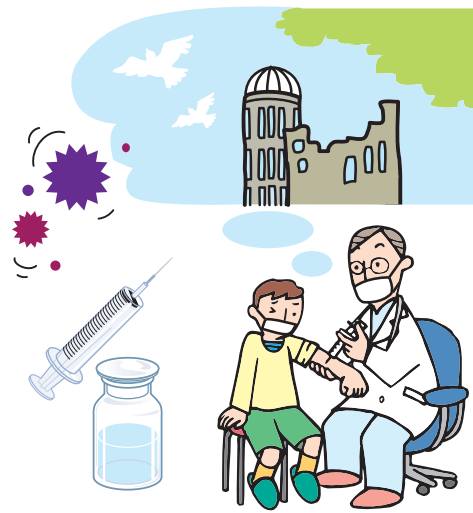
場当たりの楽観的な政府の対応は当時と似ています。その結果、日本は台湾、韓国、中国のどこよりも多くの感染者と死者を出しています。

流行が始まって1年以上たつのに、最近始まった感染力の強いデルタ株の大流行に対して何ら有効な対策が取れないのは、いわば最初に抜き打ちテストで赤点を取ったのに、その後も勉強をサボって追試にも落第したのと同じです。さらに記者の質問にまともに答えようとしない総理大臣と同じことをみなさ

## 説明つくして合理的に

んが入試や就職試験の面接でしたら、どの学校にも会社にも入れないでしょう。つまり私たちの国は筆記試験も面接試験も不合格なのです。

戦争は停戦交渉によって終結できますが、コロナとの闘いは科学力を高め、説明



取る以外終わりはありません。をつくして合理的な対策を

### 質問待ってるよ

東京大学理学部の横山順一教授(富岡市出身)が、子どもたちからの科学に関する質問に答えます。質問を50字くらいにまとめて週刊風つ子編集室に送ってね。

【書くこと】名前、ふりがな、性別、学校名、学年、メールアドレス。名前や学校名を新聞にのせてほしくない子は、ペンネームでもいいよ。

【送り先】電子メール (kazekko@rai.jin.com)



レーシングカーを間近に見る参加者  
11月7日、静岡県小山町のDステーション・レーシング御殿場工場

### 子ども向け仕事体験イベント

## モータースポーツ身近に

ネクサス(高崎市島野町、星野敏代表)のDステーション・レーシングは7日、静岡県小山町の御殿場工場で、初めての子ども向けお仕事体験イベントを開きました。各地から参加した中学生以下の子どもとその保護者ら約400人が、4組に分かれて普段は公開していないガレージの仕事を間近に見て、レーシングカーを実際に触り、清掃体験をしました。

子どもたちは、スーパー耐久シリーズ第4戦(7月31日~1日、大分県日田市・オートポリス)で優勝、2位となったレーシングカーのボディーカウルやホイールをスポンジで洗い洗いました。メカニックによるタイヤ交換の実演もあり、各組の代表親子がタイヤ交換に挑戦。

レーシングチームの普段の仕事ぶりを見学し、レーシングカーの解説を聞いて、子どもたちはモータースポーツを身近に感じていました。

星野代表は「社会貢献の一つとして、レースを支援してくれる裾野を広げるため、こうしたイベントをできるだけ開催していく」とあいさつ。レーシングドライバーでチームマネージングディレクターの藤井誠暢さんは「われわれも楽しかった。今後も子どもたちに夢を与えていきたい」と話しました。



レーシングカーのカウルを洗う子どもたち

愛知県蒲郡市の竹島水族館はいろんなやり方で生きものを説明しています。

スタッフがその魚になりきり、好きなえさや



345

### サンゴの通知表、

## 環境問題 関心高める



サンゴの水槽。右上に「通信魚」がはってある=愛知県蒲郡市の竹島水族館

水族館への希望を書く「魚歴書」。学校でもらう通知表のように、小林龍二館長が成績をつけ、コメントする「通信魚」。

植物のようだけど実は動物、サンゴの通信魚は読みました。国語のらんは「日本語や英語は苦手のようですが、サン語が話せますね。でも先生

は何を言っているのかぜんぜん聞きとれません。思わず笑ってしまおう。算数は「3と5の数字の計算が得意ですね!!」最近のはかけ算の3x5=15が覚えられました。この調子でがんばりましょう。また笑ってしまいます。

でも社会で笑えなくなりますが「自分の身にふりかかる環境問題、水質や温暖化問題にすぐに関心をもって取りくんでいきます」。サンゴは海水温が上がると死んでしまふと聞いたことがあります。

副館長の戸館真人さんはこう話します。「水族館で生きものを見て、たとえばサンゴなら『きれいだなあ』で終わってしまふ。でもそこがらちよつと考えたり、興味を持って調べたりしてほしい。そう思っている魚歴書や通信魚を作っています」

最後に「担任の館長さんより」と赤字でコメントが書かれています。「環境が悪くなり、お友達かへっている中でもがんばっています」